

平成28年3月9日
愛媛大学

愛媛大学「学生プロジェクト研究」事業 「伝統に興味を持とう！」～久枝小学校 1/2 成人式記念品製作～

愛媛大学では、このたび、久枝小学校4年生を対象に、藍の抜き染めを行います。

本事業は、学生主体で実施しており、忘れられようとしている地域の伝統を復権する作業を通して、自らの来歴を知り、伝統に立脚した、地域から日本を元気にする人材を育成することを目的としています。

抜き染めとは、漂白剤を使って、藍の色を白色に戻す染め方で、脱色の際に、藍染めした木綿ハンカチに手形を抜き染めし、1/2成人式の記念品製作を行います。この作業は、キッチンハイター、大和糊、片栗粉という、家庭にあるものを使用するので、安全、かつ短時間で、「藍染め」を体験できることが特徴です。

久枝小学校での実施は3年目になりますが、年々、保護者の藍染めへの関心は高まっており、大変な好評を受けています。

つきましては、是非、取材くださいますようお願いいたします。

記

日時：平成28年3月10日(木)

3組 8:30～9:15

1組 9:25～10:10

4組 10:30～11:15

2組 11:25～12:10

場所：久枝小学校（〒791-8006 愛媛県松山市安城寺町586-1）

参加者：4年生106人(4-1:25人, 4-2:27人, 4-3:27人, 4-4:27人)

駐車場：有 ※久枝小学校にご相談ください(089-925-4437)

■プロジェクト実施の背景

愛媛大学は、「自己表現能力を高める教育を実施し、自ら考え実践する能力」(中期目標)を持つ人材の育成を教育目標に掲げています。こうした能力を身につけるための教育プログラムとして、「学生プロジェクト研究」があります。学生が日頃「自主的に調査・研究したい」と考えているプロジェクトを、学長裁量経費で支援し、授業以外の場で、「自ら考え実践する能力」を身につけてもらうことをねらっています。本事業の前身となる愛媛大学教育改革経費事業では、伝統工芸を介した化学の魅力の発信として、日本化学連合の化学コミュニケーション賞を受賞しました。

※送付資料3枚(本紙を含む)

・昨年の道後聖母幼稚園での抜き染め実施の様子

本件に関する問い合わせ先

教育学部理科教育専修

准教授 大橋 淳史

TEL: 089-927-9434

Mail: aohashi@ed.ehime-u.ac.jp

教育

教育活動トピックス 詳細

HOME > 教育 > 教育活動トピックス > 詳細

教育 2015年10月05日

● 学生プロジェクト研究「藍染め伝統文化の次代への継承」事業で教育学部附属小学校の土曜学習「藍染めをしよう」を実施しました【9月19日(土)】

平成27年9月19日(土)、学生プロジェクト研究の一つである「藍染め伝統文化の次代への継承」事業で、教育学部附属小学校の土曜学習「藍染めをしよう」を実施し、1～6年生27人が藍染め体験に参加しました。

本学は「自己表現能力を高める教育を実施し、自ら考え実践する能力」(中期目標)を持つ人材の育成を教育目標に掲げ、こうした能力を身につけるための教育プログラムとして、「学生プロジェクト研究」を行っています。学生プロジェクト研究とは、学生が日頃「自主的に調査・研究したい」と考えているプロジェクトを、大学から経費の支援を受けながら、授業以外の場で「自ら考え実践する能力」を身につけていく事業です。



和田さんが内容を説明

当日は、大学院教育学研究科2年の和田敬行さんが中心となり、神森貴文さん(教育学研究科2年)、高柳知佳さん(農学研究科2年)、風呂圭祐さん(教育学研究科2年)、橋本愛さん(教育学研究科2年)、三浦孝之さん(教育学研究科1年)、酒井愛奈さん(教育学部4年)、吉金みのりさん(教育学部4年)、富田享さん(教育学部2年)の9人が参加しました。

子どもたちは、基本的な藍染めである「絞り染め」と人気キャラクターのステンシル版画を写し取る「抜き染め」の製作を行いました。

絞り染めでは、木綿ハンカチの生地の一部を輪ゴムを使って思い思いに縛り、染液につけて藍染めをしました。

子どもたちは、布を染液から取り出すと緑色から藍色に変化する様子を興味深く観察し、輪ゴムで縛ったあとがきれいに残って白い模様を出す様子に驚きの声を上げました。

また、抜き染めでは、予め藍染めしておいた木綿ハンカチにステンシル版画をのせて、漂白剤を使って藍の色を抜く方法で、型を写し取りました。誰でも簡単に複雑な柄をきれいに写し取ることができること、安全かつ短時間で行えること、子どもたちが好きな人気キャラクターのステンシル版画を用意していることから、子どもたちに大人気の手法です。子どもたちは2つの製作を行って、1つは保護者の方へのプレゼント、もう1つは自分で使用するものにしたようです。

こうして伝統文化に気軽に触れて、楽しい思い出をつくるのが次代への伝統の継承において最も重要です。たとえば、かつて日本酒は口噛み酒とよばれ、口の中で噛みくだいた蒸し米を使って作られていました。しかし、そうした手法で日本酒を造っても誰も飲まないでしょう。昔ながらのやり方を続けることも大事ですが、伝統が忘れられ、途絶えては意味がありません。伝統は時代に合わせて変わってもよいのです。誰もが手軽に楽しく、伝統について考えることができるよう、学生たちは子どもたちと楽しみながら過去と未来を繋ぐ活動に従事しています。

本プログラムは、愛媛新聞9月21日朝刊「伊予絁継承へ児童27人挑戦」に掲載されました。



絞り染めに挑戦



きれいな絞り染めの完成



藍染めしたハンカチを漂白剤で色抜き中



抜き染めの完成

<教育学部>

[◀ 前のページに戻る](#)

[ページの先頭へ戻る](#)